



北極圏 国立野生生物保護区

北極グマ(白クマ)観察の注意点

ボートからクマを観察する場合は公認業者をお雇いください。

ボートからクマを観察したり水上タクシーを使われる場合は公認業者をお雇いください。公認業者には、登録されたボート操業者や職員がいます。これら職員は北極グマ観察を安全に案内するための特別な研修を受け、野生動物保護のための法律や研究に関する知識も備えています。公認業者はボートや必要器具を常に高い標準に維持し、操業するように義務づけられています。

北極圏国立野生生物保護区認定の業者のリストは <http://arctic.fws.gov/pbguide.htm> をご覧下さい。

公認のボート操業者はボート内に北極圏国立野生生物保護区内で操業するための許可証の控えを保管しています。許可証を取得し維持するために、これらの公認業者は色々な努力をしてきました。許可証にはアメリカ海上保安庁発行の免許を持つボート操縦者の名前も記されています。乗客が問い合わせた時には、公認の操業者はその認可証を乗客に見せることになっています。

北極圏国立野生生物保護区管理者と北極グマ観察活動との関わり

北極圏国立野生生物保護区管理者は、野生動物の生息地と地域先住民の伝統的生存狩猟活動を守るために、カクトピック周辺の保護区の陸地と水上で行われる商業活動を監督する義務があります。

北極圏国立野生生物保護区管理者及びその共同者はボート操業者やその他の業者に技術援助や研修の機会を提供しています。詳しくはジェニファー・リード (Jennifer Reed at Arctic Refuge: (907) 455-1835, or jennifer_reed@fws.gov) までお問い合わせください。

北極グマ(白クマ)は一見おとなしそうに見えても野生動物であり、行動を突然変えることがあります。ですから、野生の北極グマ観察は常に危険を伴います。

クマの観察はクマを刺激したり脅かしたりすることを避けるという前提に基づき、法律で認められています。現在みなさんに観察の機会が続けて与えられているのは、これまでの観察者が安全確保にふさわしい責任ある行動をとってきたからです。皆さん自身や他の観察者がクマや人の安全を最優先した行動をとってこそ、貴重な野生の北極グマ観察の機会を今後も続けていくことができます。

それぞれのクマが人に対してどのように反応するかは、クマの性格、観察時の色々な状況などにより大きく違ってきます。たとえば、人が30メートルまで近づいてもあまり気にとめないクマもいれば、150メートル以上近づくと逃げてしまうクマもあります。また、同じクマでも、大きな音を出して早いスピードで近づいて来る車やボートには敏感に反応する反面、音や光を最小限におさえつつゆっくりと近づけばそれほど気にとめない傾向があります。

下記に北極グマ(白クマ)観察の際の注意点を挙げています。

これらの注意点を守っていただくことで、北極グマに与える影響を最小限にとどめることができます。

観察の前に:

- ガイドと一緒に、Polar Bear Viewing Information (北極グマ観察について説明した小冊子)をお読みください。
- 非常時(たとえば、観察中に車が故障した場合など)にどうすればよいか、ガイドの定める安全確保のための計画をよく確認しておいてください。
- クマがそわそわし出したり、あなたに興味を示したり、攻撃的、威圧的に近づいて来た場合などに、どのように対応すべきかを事前に知っておいてください。
- 野生動物は身に危険を感じると色々な兆候を見せます。(Polar Bear Viewing Information に記してあります。) そういった兆候を知っておき、クマを刺激するような行動を避けるようにしましょう。

観察する時に:

- 観察場所には光や音を最小限におさえながら、行きも帰りも同じ経路を使って、ゆっくりと近づいてください。
- あなたの声が常にガイドに聞こえる範囲内にとどまって観察しましょう。
- 観察中は大声で話したり急に動いたりするのを避けましょう。
- 薄暗い時間にクマを観察する場合は特に注意が必要です。例えば、薄暗い中で、一方向ばかりに気を取られていると、違う方向から近づいて来るクマに気がつかない恐れがあるので、全ての方向を常に見張る役の人を一人決めるなどの工夫をするのも一つの方法です。
- ガイドから特に指示がない限り、車やボートの中にとどまりましょう。

厳守すること:

- クマを追いかけたり、一カ所に追い込んだり、別の場所に追いやったり、クマにつきまったりしないでください。
- 食べ物、におい、音などで、クマの興味を引こうとしないでください。
- クマを車やボートに接触させないでください。
- 絶対に母グマと子グマを離れさせてはいけません。
- 泳いでいるクマの邪魔をしないでください。
- 地域にあるクマ観察に関するすべての標識、囲い、決まり事などに必ず従ってください。

よくある質問

北極グマ(白クマ)にどのくらい近づいてもいいですか。

- 法律ではクマ観察の距離は特に定められていません。そのかわりにガイドと観察者はクマを刺激したり脅かしたりすることなく観察するように求められています。クマの行動は個々のクマの許容性や観察者の行動によって大きく左右されます。
- あなたの行動がクマの行動に影響を与えた場合は直ちに接近するのをやめてください。接近をやめてもクマがまだ落ち着かない態度を見せた場合はクマから遠ざからなければなりません。
- クマを法律にしたがって安全に観察するためには、クマの行動や生態を深く理解する必要があります。ですから、専門的な知識や経験があり、信頼できるガイドを雇うことはとても大切です。

どのようにクマを観察するかを決めるのは誰の判断であるべきですか。ガイドですか、それとも観察者ですか。

- 観察者とクマの安全を確保するために適切な行動を選ぶのはガイドの責任です。ガイドの判断を尊重し、それに従ってください。しかし、法に従ってクマを尊重することは、ガイドの有無に関わらず、観察者自身の責任でもあります。

北極グマにとって必ずしも好ましくない影響を及ぼすいくつかの活動は許されているのに、なぜ北極グマの観察はとても注意深く管理されているのですか。

- The Endangered Species Act (絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律) 及び Marine Mammal Protection Act (海洋哺乳類保護法) は特別な例として、先住民の伝統的生存狩猟活動、科学的調査、人命保護などが目的であれば、北極グマに影響を与える活動であってもそれらを許可しています。これらの活動に従事する狩猟者、科学者、管理者たちはクマへの影響をできる限り抑え、その活動を報告するよう義務づけられています。
- 娯楽のための北極グマ観察は上記の法律で例外を認められた活動ではありません。ですから、観察活動がクマに好ましくない影響を与えない方法で行われるという前提がなければ続けて行くことはできません。そのため、観察活動を注意深く管理しなければならないのです。

営利目的で北極グマの写真を撮るには特別な許可が必要ですか。

- ほとんどの場合、営利を目的とした写真撮影をするためには特別な許可が必要です。詳しくは Polar Bear Viewing Information (北極グマ観察について説明した小冊子) をご参照ください。撮影の行われる場所や状況によって条件が異なる場合があります。

もし北極グマを町の中で見かけたら、どうしなければいけませんか。

- 安全な場所に移動した後、直ちに911に電話し、クマを見た場所を報告して下さい。

北極圏国立野生生物保護区の海岸地域は北極グマ観察の機会とクマの保護のために市民が果たす役割の重要性という点において、とても特別な地域です。

これまでの観察者が北極グマを尊重し適切な行動を取ってきたからこそ、現在も北極グマの観察の機会が与えられているのです。今後もこのような観察の機会を続けることができるよう、観察のための注意点を守って安全なクマの観察をされますように、ご協力をお願いします。

北極グマ (USFWS)

